

## 十日町市議会 会派かがやき 観察報告

- 実施日：2024年5月14日 9:00～11:00
- 訪問先：東京シユーレ葛飾中学校（東京都葛飾区新小岩）
- 対応者：学園長 奥地圭子氏 ほか校長先生 教頭先生
- 主目的：学びの多様化学校と不登校支援の取り組みについて
- 観察の流れ：①学園長による概要説明 ②校内見学 ③質疑応答
- 概要：

本校は、2007年4月に開校した定員120人の私立中学校で「子どもがつくる、子どもとつくる」を重視した不登校を経験した子どものための学校であり「不登校を経験した子どもたちが安心して通い、笑顔で学校生活が過ごせるように」という思いから誕生したユニークで先進的な学校で葛飾区、東京都、国などの協力を得て開校。

一般の中学校より少なめの授業数、短めな授業時間で、ゆったりとした学校生活を送ることができ、子どもの個性を伸ばす多くの工夫や様々な特性に配慮された対応がされており、都内からだけでなく群馬県などの県外からも通う生徒がいる文部科学省から認可を受けた「学びの多様化学校」（不登校特例校）である。

校舎は葛飾区から旧小学校跡を借用し、国から私学助成が受けられる私立として設置。日々の学校運営は子どもの自己決定を尊重し、ミーティングや話し合いを行い、思い・気持ち・考え方へ寄り添って決められている。

いつでも登校して学習や相談ができる部屋、他の生徒に会わなくても登校し学習ができるよう工夫がされた部屋、昼食も一人で摂れるように配慮された部屋、子ども達の提案で改修されたカフェのようなお洒落なスペースなど、多岐にわたる生徒の特性や感情に対応するよう多くの工夫がされていた。



## ■所感（まとめ）

当会派が不登校支援について視察し学ぶ機会は前回2023年さいたま市の“不登校等児童生徒支援センター”（Growth）に続いての2回目であるが、十日町市でも近年の不登校児童の増加が右肩上がりであることに懸念と課題を感じ知識を深化させるべく今回の視察とした。

不登校になる理由は、学校環境に馴染めない・いじめ・教職員や他児童生徒との人間関係・当該児の特性など様々であるが、不登校を社会全体の課題として捉え真剣に考えるべき重要な課題と改めて感じた。不登校は、それ自体が特別なことではなく、多様性が一般化する社会ではごくごく普通の事であると思う。

学園長との質疑応答のなかで「靴を選ぶときには自分の足に合う靴を選択する。これと同じように学校を選ぶときは自分に合った学校を選ぶ」という考え方につれ、目から鱗の感覚を得たが、そんな当たり前の事ができない現状のなかで子どもの思いや気持ち、考え方を真に寄り添い、何をすべきか、どう対応するべきか考える良いきっかけとなった。

十日町市の教育現場でも試行錯誤が続いているが、本校の取り組みを参考に、子どもや保護者の意向を尊重したさらなる柔軟な支援や対策を模索すべきと学んだ。

十日町市の今後の取り組みに、とても参考になる有意義な視察となった。

（文責：村山達也）

